

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 6 月9日

## 【評価実施概要】

|       |   |
|-------|---|
| 事業所番号 | ( 評価機関で記入 ) 2072501204                      |
| 法人名   | 有限会社大島                                      |
| 事業所名  | グループホーム いきいき                                |
| 所在地   | 長野県下伊那郡松川町元大島5274番地22<br>(電 話) 0265-34-1122 |

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 評価機関名 | NPO 福祉総合評価機構 長野県事務所 |
| 所在地   | 長野県飯田市上郷別府3307番地5   |
| 訪問調査日 | 平成20年5月26日          |

## 【情報提供票より】( 20年 3月 5日事業所記入)

### (1) 組織概要

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 開設年月日  | 平成 18 年 3 月 1 日 |
| ユニット数  | 1 ユニット          |
| 職員数    | 9 人             |
| 利用定員数計 | 9 人             |
| 常勤     | 5 人             |
| 非常勤    | 4 人             |
| 常勤換算   | 8 人             |

### (2) 建物概要

|      |                  |
|------|------------------|
| 建物構造 | 木造平屋 造り          |
|      | 1 階建ての 階 ~ 1 階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |          |   |
|---------------------|----------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額)            | 35,000 円 | その他の経費(月額)     | 16,000 円 |   |
| 敷 金                 | 有( 円)    | (無)            |          |   |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)    | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無    |   |
| 食材料費                | 朝食       | 円              | 昼食       | 円 |
|                     | 夕食       | 円              | おやつ      | 円 |
|                     | または1日当たり | 1,000 円        |          |   |

### (4) 利用者の概要( 3月 5日現在)

|       |         |      |      |    |      |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名     | 男性   | 3 名  | 女性 | 6 名  |
| 要介護1  | 4 名     | 要介護2 | 2 名  |    |      |
| 要介護3  | 2 名     | 要介護4 | 1 名  |    |      |
| 要介護5  | 名       | 要支援2 | 名    |    |      |
| 年齢    | 平均 83 歳 | 最低   | 76 歳 | 最高 | 91 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |             |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 中村医院、下平歯科医院 |
|---------|-------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいきいきは松川町の郊外にあり、最近開発された広い敷地の中にある。そして、敷地の1部分に植木を植え、畑を作ってレタスやネギを作ろうとしている。訪れた日は、当たり前のように利用者・職員が出迎えてくれ、一緒に楽しいお茶の時間を過ごした。利用者と職員との昼食の献立作りに話が盛り上がり、五平餅の昼食では利用者の得意な詩吟の朗詠でまた盛り上がった。

このように、一人ひとりの状況の違いはあるが、その特長を十分発揮し、いきいきとして暮らしている利用者の姿を見て、職員はもとより運営者や管理者の、ここに至るまでの並々ならぬ理念の実現への意欲を強く感じた。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)   |
|      | 昨年度外部評価で指摘された職員のストレス解消については、2日間に分けて行った日帰り旅行などを通して親睦を深め、解消に努力している。また、職員もこのホームの家族の一員のように思って、手に入れた野菜などを差し入れしたり、立ち寄りたりして、温かな雰囲気を作っている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  |
|      | ホームの運営方針として、「自己評価・第三者評価を通じて利用者満足度の向上が図れるように努める」と掲げているように、意欲的に取り組んでいる。さらに、自己評価について職員が十分理解し共有することによって、さらに良い取り組みが可能と考える。              |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)   |
|      | 3か月に1回運営推進会議を開き、状況報告や話し合い等を行い、地域との連携に役立てている。家族の代表に「外出をもっとしてほしい」と意見を出され時などは、すぐ対応してきている。   |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  |
|      | 家族の方が来所されたときに話などを聞いたり、意見箱を設置したりして、意見や苦情などに対応できるようにしている。家族会がまだないので、作るように働きかけ、家族同士の話し合いの結果が反映できることを期待したい。                            |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)   |
|      | 自治会に加入し、職員が掃除やソフトボール大会などに出たり、利用者は盆踊りやふれあい広場などに参加したりしている。また、中学・高校・短期大学などの福祉体験を受け入れたり、地域ボランティアの方に来てもらったりして、交流を広げている。                 |

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                           | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------------|----|---|--|-------|--|
| <b>. 理念に基づく運営</b>            |    |   |  |       |  |
| <b>1. 理念と共有</b>              |    |   |  |       |  |
| 1                            | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                 | 「利用者の皆様と共に暮らしをつくりあげます。地域の中で地域の皆様と暮らします」という理念を掲げ、「ずうーとあなたらしく、ずうーといつまでも、ずうーとわがままに、ずうーといきいきと」を合言葉にして、事業所独自の理念をつくりあげてきている。 |       |  |
| 2                            | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                    | 管理者の、「利用者は人生の大先輩であるから、出来ないところをお手伝いさせてもらう」という姿勢が職員の間浸透し、職員も理念を理解し、実践に取り組んでいる。   |       |  |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |    |   |  |       |  |
| 3                            | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている              | 自治会に加入し、職員が掃除やソフトボール大会などに出たり、利用者は盆踊りやふれあい広場などに参加したりしている。また、中学・高校・短期大学などの福祉体験を受け入れたり、地域ボランティアの方に来てもらったりして、交流を広げている。     |       |  |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |    |   |  |       |  |
| 4                            | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                | 昨年度の外部評価の結果を活かし、例えば、職員のストレス解消については親睦旅行を実施したりして、具体的な改善策をとってきている。自己評価については、管理者・事務長が中心になって取り組んできている。                      |       | ホームの運営方針として、「自己評価・第三者評価を通じて利用者満足度の向上が図れるように努める」と掲げていることは意欲的で素晴らしい。さらに、自己評価について職員が十分理解し共有することによって良い取り組みが可能と考える。 |
| 5                            | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 3か月に1回運営推進会議を開き、状況報告や話し合い等を行い、地域との連携に役立っている。家族の代表に「外出をもっとしてほしい」と意見を出され時などは、すぐ対応してきている。                                 |       |  |

グループホーム いきいき

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                |
|-----------------|----|---|--|-----|--|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 町の担当者との連絡を密にとり、報告したり、助言してもらったりしている。                            |     | ホームの便りを充実したりして、町の担当者との連携をさらに強めると良いと思われる。         |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |  |     |  |
| 7               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている                              | 利用者一人ひとりの暮らしぶりなどを、毎月、ていねいで詳しく書かれた自筆の手紙や写真で報告して、家族の方から大変喜ばれている。 |     |  |
| 8               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 家族の方が来所されたときに話などを聞いたり、意見箱を設置したりして、意見や苦情などに対応できるようにしている。        |     | 家族会がまだないので、作るように働きかけ、家族同士の話し合いの結果が反映できることを期待したい。 |
| 9               | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 新しい職員が入ったときには、ベテランの職員が引継ぎを支援したりして、ダメージがないように配慮している。            |     |  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |  |     |  |
| 10              | 19 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 計画的に研修や講習の機会を儲け、職員に勧めている。また、近くのグループホームとの相互の研修に力を入れている。         |     |  |
| 11              | 20 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 特に、近くのグループホームとの相互の研修が盛んで、職員は半月の長い研修を行い、サービスの向上に役立っている。         |     |  |

| 外部                               | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|---|-----|-----------------------------------|
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |   |   |     |                                   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応        |    |   |   |     |                                   |
| 12                               | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>利用者が安心して入居できるように、家族の方と見学してもらったり、他の利用者と一緒にお茶を飲んでもらったりして、雰囲気に馴染めるように工夫している。</p>  |     |                                   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援        |    |   |   |     |                                   |
| 13                               | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                        | <p>利用者の話をゆっくり聞いてあげ話ができることを楽しいと感じ、車で外出したとき美しいツツジを見て笑顔でいっぱいだったことを自分の喜びと受け取ったと、職員が語ってくれた。また、お茶や食事の時間には、利用者が話しやすいように話題を提供したりして、笑いの絶えない時間を過ごすことができた。</p> |     |                                   |
| <b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |   |   |     |                                   |
| 1. 一人ひとりの把握                      |    |   |   |     |                                   |
| 14                               | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>  | <p>利用者一人ひとりの思いや希望は話を通してつかみ、外出に付き添ったり、好きな物嫌いな物などはケース記録を通してつかみ、食事などに配慮したりしている。</p>  |     |                                   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し   |    |   |   |     |                                   |
| 15                               | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>         | <p>利用者一人ひとりの課題やケアについて職員会で検討し、「身ざれいにしたい 入浴 呼びかけ」というような、本人がしたいことを基にした介護計画を作成している。</p>   |     |                                   |
| 16                               | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>     | <p>月に1回、職員会で介護計画を見直し、話し合ったことをケースカンファレンスの記録としてまとめ、活用している。</p>  |     |                                   |

グループホーム いきいき

| 外部  | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援                                   |    |  |   |     |                                   |
| 17  | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                           | 利用者や家族の方の状況に応じ、通院や送迎や看護師派遣など、必要になった支援が臨機応変に対応できるようにしている。  |     |                                   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働                         |    |  |   |     |                                   |
| 18  | 43 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している             | 近くの主治医と連携をとり、月1回の往診や随時の受診ができるようにしている。また、利用者個々では、都合のつく家族の方や職員同行で飯田病院に受診している。   |     |                                   |
| 19  | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合や終末期のあり方については、話し合っているが、マニュアルは作成していない。  |     | 終末期の指針を基にマニュアルを作成することが望まれる。       |
| <p>○</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> |    |  |   |     |                                   |
| 20  | 50 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 利用者一人ひとりの誇りを大切に言葉かけを行っている。トイレに行くときもさりげなく声をかけ、本人が傷つかないような配慮を心がけている。  |     |                                   |
| 21  | 52 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している           | 利用者一人ひとりとの会話を大切にして、希望にそって食事やお茶の時間後など、テレビを見たり、ちぎり絵をしたりして過ごしてもらっている。そして、「何でも寄り合うで言てな」という利用者の言葉を活かし、洗い物や台所のお手伝いを一緒にしている。 |     |                                   |

グループホーム いきいき

| 外部                                  | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| <b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |  |   |     |                                  |
| 22                                  | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 昼食はホットプレートで焼いた五平餅だった。朝のお茶の時間から利用者と職員が一緒になって、どんな味噌にしよう、どんな形にしよう、どんな風に焼こうなどと相談し合って作ってくれた。昔の作り方を教えてくれ味噌をつける利用者も、食べるだけの利用者もありがたく、おいしく食べることができた。 |     |                                  |
| 23                                  | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 利用者の希望を聞いて、週2日以上、午後の2時ごろから声かけて、車椅子の利用者も、ご夫婦の利用者も、風呂が嫌いな利用者も、それぞれ入浴を楽しむことができるようにしている。  |     |                                  |
| <b>(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |  |   |     |                                  |
| 24                                  | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者それぞれの生活歴や好みなどに合わせて、詩吟を習っていた利用者にはときどき謡ってもらったり、喫茶店で働いていた利用者には台所で味付けなどをみてもらったりして、張り合いのある暮らしをつくりだしている。                                       |     |                                  |
| 25                                  | 61 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 普段は広い敷地の中で花や野菜を見に散歩したり、また、買い物に出かけたりしている。そして、希望を聞いて季節に応じて花の見所を見学したりして、外出する機会を多くしている。   |     |                                  |
| <b>(4)安心と安全を支える支援</b>               |    |  |   |     |                                  |
| 26                                  | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 玄関にはチャイムを設置し、21時から翌朝6時以外は日中鍵をかけないようにしている。出て行きそうな気配がするときには、一緒に付き添い出かけるようにしている。   |     |                                  |
| 27                                  | 71 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 消防署に来てもらって、台所から出火したという想定での避難訓練を実施した。利用者は実際にヘルメットをかぶり、職員が避難誘導した。マニュアルを備え、非常用品なども備え、地域の方の協力が得られるように働きかけている。                                   |     |                                  |

グループホーム いきいき

| 外部                        | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |   |  |     |                                   |
| 28                        | 77 | <p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>                                   | <p>利用者一人ひとりの栄養摂取について毎食チェックし、バランスに配慮している。定期的に管理栄養士に献立を見てもらい、さらに栄養摂取・栄養バランス・水分確保に留意していく予定である。</p>                    |     |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |   |  |     |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |   |  |     |                                   |
| 29                        | 81 | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>広い居間兼食堂には大きなテーブルが2つあって、すぐ近くに座敷があり、利用者や職員がくつろげる空間になっている。利用者は食事やお茶の時間には、テーブル席を固定せず、自由に席を変えて職員と一緒にのびのびと過ごしていた。</p> |     |                                   |
| 30                        | 83 | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>                   | <p>利用者は使い慣れた家具を置き、家族等の写真などで飾り、それぞれ居心地よい居室になっている。また、夫婦の利用者が過ごせるように寝室と他の部屋が隣部屋になっており、様々な配慮がされていた。</p>                |     |                                   |